

平成27年度第2回「KANSEI（感性）サロン」開催報告

～ デジタルヒューマン技術による人にやさしい製品開発に関わる最新研究 ～

公益財団法人ちゅうごく産業創造センターと国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）中国センターは、共催で感性及び人間工学の研究活動に関わる今年度2回目の集いを鳥取市で開催しました。

今回は「使いやすさ」に焦点をあて、デジタルヒューマン技術による人にやさしい製品開発に関わる最新研究のトピックスと、地元企業の活動実例や地域連携事例を紹介し、大学や企業などから58名の皆様にご参加いただきました。また、本会は、NHKの中国地域各放送局のニュース番組で取り上げられ、大きな反響がありました。

【日時・会場】 平成28年 2月17日（水） 13:00～16:00

鳥取市 鳥取ワシントンホテルプラザ

【概要】

発表1 産業技術総合研究所 主任研究員 宮田 なつき氏



「デジタルヒューマンで使いやすさを創る」

個人の身体機能を観測し、コンピュータ上に再現するだけでなく、個人が製品・サービスの提供を受けて起こす行動や、それによる生活の変化を観測して、コンピュータ上に再現する技術を紹介されました。

デジタルヒューマン技術とは、人間の生理・解剖学的機能、運動・機構的機能、認知・心理的機能の実測結果に基づき、人間の機能をコンピュータソフトウェアとして実現し、安全で効率的な機器や設備の設計・試験・運用に活用するための技術です。

発表2 広島県立総合技術研究所
副主任研究員 横山詔常 氏



「デジタルヒューマン技術による地域との連携事例紹介」

人口減少により力仕事が必要な建設業や配送業等の分野に非力な女性を活用するニーズが高まる中、中国地域質感研究会での活動として、地域の手袋メーカーとグリップ（滑り留め）の強い手袋の着用により、当該分野に女性の進出を促進する研究活動を紹介されました。

発表3 ニシウラ㈱ 社長 西浦伸忠 氏



「介護用車いすの開発」

建設業から介護・福祉分野に事業展開を図った、鳥取県の企業が昨年中国地域質感研究会に参加されて、食事をし易い車いすの開発等、要介護者目線での製品開発を進めておられ、高齢化の進む社会への貢献の熱い思いを紹介されました。

【後援】 鳥取県、（国法）鳥取大学、（独法）鳥取県産業技術センター、経済産業省中国経済産業局、（一社）中国地域ニュービジネス協議会、（独法）中小企業基盤整備機構中国本部、（一社）日本人間工学会、日本感性工学会



この事業は、競輪の補助を受けて実施しました。

<http://ringring-keirin.jp>